

市民健康課
☎973-3209

うるま市からはしかゼロをめざして！

はしか(麻しん)は感染力が強く、かかると重症化し、死亡に至ることもある怖い病気です。

うるま市内でも、昨年10月、11月に発生がありました。

はしかには特效薬はありません。予防接種を受け、予防することが大切です。

今回は、うるま市予防接種率向上対策会議会長の知念正雄氏(知念小児科医院長)に今後のはしか対策についてのご意見を伺い、その内容について掲載しました。

麻しん・風しん混合(MR)ワクチン接種を早めに受けましょう



知念小児科医院長
知念正雄

新聞やテレビの報道でご存知のように、関東や北海道、福岡などでは、

今年に入ってはしか(麻しん)が流行しています。はしかは感染力が強いので全国に広がる恐れがあります。対象者は早めにワクチン接種を受けてください。

はしかは、昔からよく知られている病気ですが、「命定め」として恐れられ感染力が強く、かかったら死亡することもある怖い病気です。

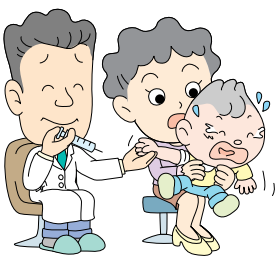
沖縄でも平成10年から13年には大流行があり、9名の乳幼児が死亡しました。その中の1名は具志川市(当時)の乳児でした。

はしかは風邪症状(熱、鼻汁、咳、結膜炎)で始まり、次第に高熱と発疹がでて、経過中に気管支(肺)炎、脳炎などを併発して死亡することもあるのです。はしかウイルスが原因の病気なので、特效薬はありません。はしかはワクチンを接種して予防することが一番です。

昨年は関東一円で多数の大学生や成人がはしかにかかり、大学が休講や閉鎖になり社会問題にもなりました。患者の多くは、麻しんワクチンを一度も接種していなかった方々です。

現在、定期予防接種として実施している麻しん・風しん混合(MR)ワクチン接種は、1才児(1期)、就学前の幼稚園児(2期)ですが、それに加えて平成20年4月から、中学1年生(3期)、高校3年生(4期)が対象になります。「1才になつたらすぐにMRワクチンを!」、「小学校に入る前にもう1回ワクチンを!」そして、中学校1年生、高校3年生は4月から6月までの早い時期にMRワクチンを受けましょう。

2002年までに日本から「はしか」をなくすために、国の麻しん排除計画が発表されました。うるま市から1人のはしか患者も出さないために、対象者は早めに麻しん・風しん混合(MR)ワクチンを受けましょう。



麻しん・風しん混合(MR)ワクチン接種に3期・4期が加わります!



平成20年4月から、麻しん・風しん混合(MR)ワクチン定期予防接種の対象者に、中学1年生(3期)、高校3年生(4期)が加わります。

- 1期：1才以上、2才未満
- 2期：小学校就学前の1年間
- 3期：中学1年生
- 4期：高校3年生

☆対象の方には個別通知にてご案内いたします。
詳しくは、市民健康課までお問い合わせください。

